

## 気になる鳥たち

浅川 千佳夫  
日本野鳥の会群馬

はじめに

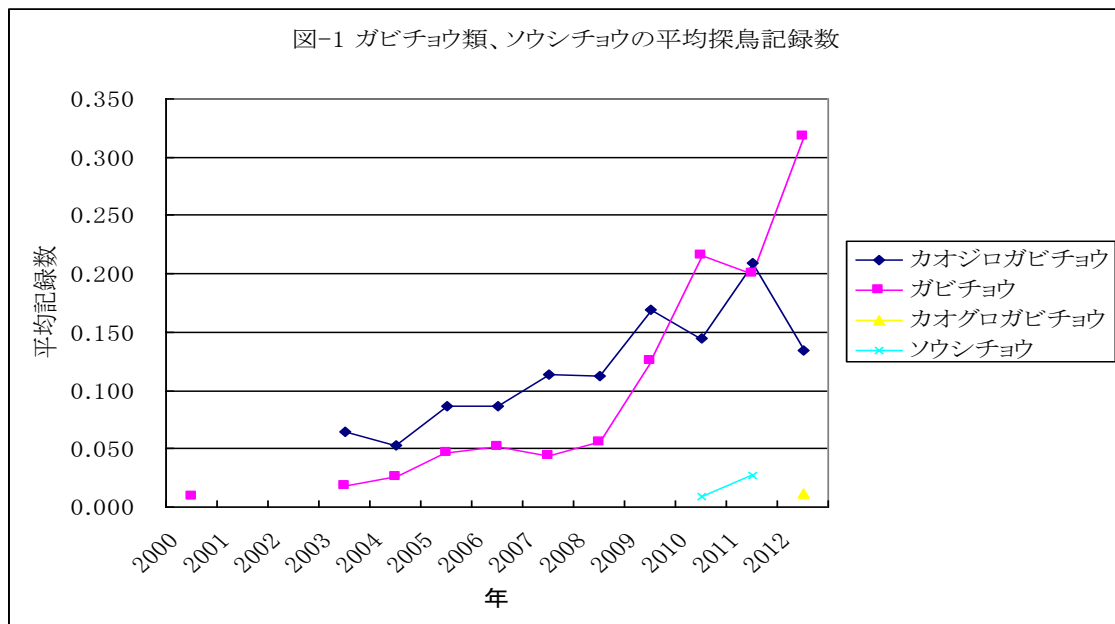
日本野鳥の会群馬では定期的あるいは不定期に探鳥会を行なっている。その記録から気になる鳥たちについて報告する。最近よく見られる外来鳥3種と、水辺の鳥のうち増減の目立つ種を紹介する。

### 1 外来鳥

近年群馬県でもガビチョウ類、ソウシチョウを見る機会が増えている。カオジロガビチョウは1990年に旧大間々町で初めて繁殖が確認された。ガビチョウは1999年に藤岡市で記録された。カオグロガビチョウは2002年に前橋市で記録された。

1999年までは探鳥会での記録が無いので、2000年～2011年の平均探鳥記録数変動を図-1に示す（平均探鳥記録数＝探鳥記録数/探鳥会回数）このように2003年から記録数は増え始めた。

ソウシチョウは1996年頃から群馬県内での目撃例があるようだが、その後の記録はあまり見られなかった。しかし最近、探鳥会での記録が出始めた。2003年5月に高崎市で、2010年11月に藤岡市でそれぞれ1例、2011年には3例が記録された。

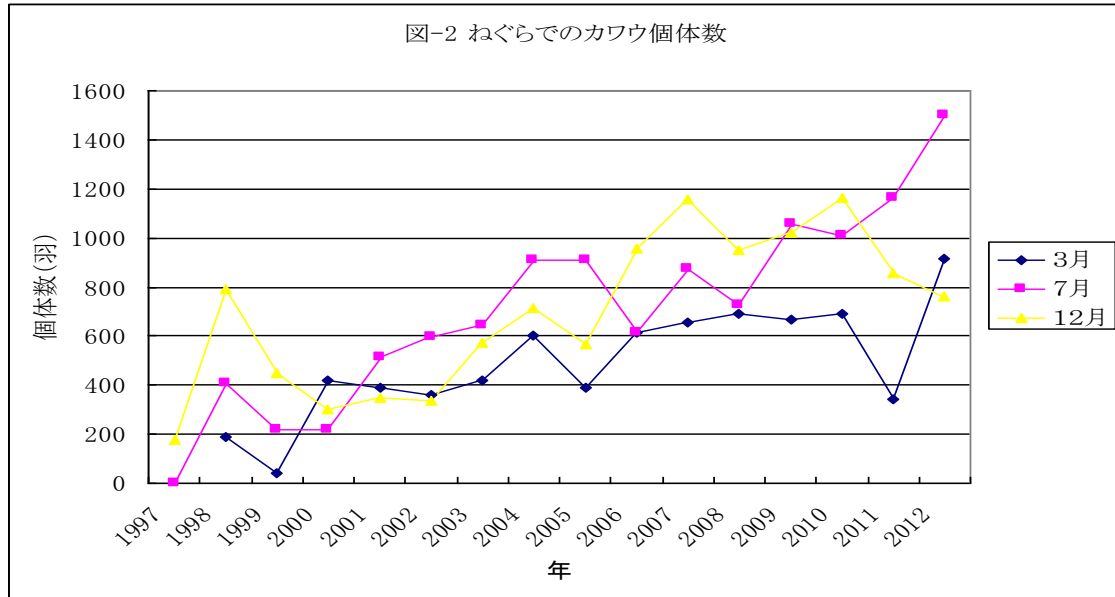


### 2 オオバン

群馬県内では東毛地域の沼で繁殖している。他地域では主に冬期記録されてきたが、2005年以降は10月～3月に記録されているほか北毛地域や西毛地域で5月、6月にも記録がある。

### 3 カワウ

群馬県内では1982年に館林市、安中市、富岡市の湖沼及び伊勢崎市の利根川で初めての記録がある。1989年より増加し始め、1990年以降急激な増加となった。1997年に初めての繁殖記録がある。図-2に1997年～2012年の浅川による「ねぐら入り調査」から、ねぐらでの個体数変動を示す。



### 4 サギ類

コサギは普通に見られていたが2001年から急激に記録数が減り、一方ほとんど見られなかったアオサギは1998年から増え続けている。またダイサギも増えてきた。図-3に1987年～2011年の平均探鳥記録数変動を示す。変動の要因を知りたい。

